

資源物収集について(検討課題)

1. 資源物の収集方法及び頻度

<現状>

収集方式:ステーション方式(市内147カ所)

収集日時:月2回、午前7時から9時まで

収集品目:空缶、空ビン、ペットボトル、その他プラスチック、
その他不燃、有害ごみ

R4.1~R5.2月前年比較

資源ごみ:	34.22t	3.35%	増	▲
ペットボトル:	13.79t	12.50%	増	▲
その他プラ:	66.31t	36.34%	増	▲
古紙:	22.43t	42.19%	増	▲

2. 収集方法について

(1) 現状維持

効果:コスト負担無しにリサイクル率が引き続き向上する期待がある

ステーション周辺の住民にこれ以上の負担がない

懸案:可燃ごみと一緒に排出する可能性

市民の利便性は改善されない

民間回収など、ステーション排出以外の排出方法について施策の推進

(2) 収集頻度を増やす(その他プラ以外は隔週方式)

1週目:カン、ペットボトル、その他不燃、その他プラ

2週目:ビン、有害ごみ、その他プラ

効果:その他プラの収集頻度増により、利便性向上

1回当たりの排出量が減少するため、集積場のコンテナ数を増やさなくても対応可

懸案:収集コスト増、収集業者の対応能力(人員、車両)

毎週資源物の回収があるため、ステーション近隣住民の負担増(騒音、周辺美化)

安易に資源ごみを出すという意識が芽生えかねない

(3) 戸別収集

もやすごみと同様、自宅前(ステーション)に排出

効果:市民の利便性向上(高齢者のごみ出し支援にも繋がる)

自宅前に出すので、排出者の特定が容易であり、正しい分別が期待できる。

懸案:収集コスト増、収集業者の体制確保(人員、車両)

資源ごみのどこまで対応するのか(その他プラのみ?)

別途、資源ごみ袋が必要について検討

(4) 店頭回収

小売業者の店頭回収の促進

(回収店舗のPR、事業者の回収品目増加、排出しやすい仕組み作り(インセンティブ付与))

効果:市民の利便性向上(月2回の資源物収集以外の機会の提供)

懸案:店頭回収の場소가限定される(市内で対応出来る大型店舗が少ない)

資源物を回収する仕組みがない事業者への取組支援(回収業者のマッチング)

< 資源物回収協力店 >

施設名	住所	回収品目
イオンフードスタイル東向日店	向日市寺戸町小畑5-1	食品トレイ、牛乳パック、ペットボトル、アルミ缶
イオンスタイル京都桂川	京都市南区久世高田町376-1	食品トレイ、牛乳パック、ペットボトル、アルミ缶
株式会社神崎屋	向日市寺戸町東ノ段4	食品トレイ
ドラッグユタカ向日上植野店	向日市上植野町下川原1-8	ダンボール、新聞、チラシ、本
フレスコ向日市店	向日市寺戸町東野辺31-8	食品トレイ、牛乳パック
万代榎原店	京都市西京区榎原比恵田町22-1	食品トレイ、牛乳パック、ペットボトル
マツモト向日店	向日市森本町高田5-1	食品トレイ、牛乳パック
マツモト大原野店	京都市西京区大原野上里南ノ町923-2	食品トレイ、牛乳パック

【参考】



えらんで
エコなプラスチック製品を
えらぼう

減らして
使い捨てプラスチックの
ごみを減らそう

リサイクル
プラスチック製品は
分別してリサイクルに協力しよう

プラスチック資源循環戦略(国の中間目標)

リデュース等	○ 2030年 までにワンウェイプラスチックを累積 25% 排出抑制
リユース・リサイクル	○ 2025年 までにリユース可能なデザインに ○ 2030年 までに容器包装の6割をリユース・リサイクル ○ 2035年 までに使用済みプラスチックを100%リユース・リサイクル等により有効活用
再生利用 バイオマスプラスチック	○ 2030年 までに再生利用を 倍増 ○ 2030年 までにバイオマスプラスチックを 約200万トン 導入

～出典:環境省～